

海外農林業情報（号外） 2012.8.8

米国中部で続く干ばつの影響

米国中部では干ばつが続いており、USDA（米国農務省）はトウモロコシやダイズ等の生産に及ぼす影響についての警戒を強めています。USDA が公表する Agricultural Weather and Drought Update は、拡大する干ばつにより秋の収穫は悲観的であり（7月12日付）、干ばつ地域の更なる拡大（20日付）を示唆しています。米国のトウモロコシ生産は、受粉限界時期である8月初めの雨量に大きく左右されることから、特に警戒されています。

干ばつの影響は収量予測にも反映されています。World Agricultural Supply and Demand Estimates（7月11日付）によると、2012/13年の米国のトウモロコシ収量の予測は、6月初期以来の作物状態の急な悪化および最新の気象データを反映して、1ac（エーカー／約0.41ha）あたり20bu（ブッシェル）低い146bu（約3.71t）まで落ち込み、また、ダイズ収量は先月から3.4bu減少し40.5bu/ac（約2.72t/ha）と予想されています。今回の干ばつの影響が反映される次回の同予想報告（8月10日公表予定）が注目されます。

南米でのダイズの不作があった後でもあり、さらに Financial Times（7月26日付）によると、インドではモンスーン時期の雨が少なくコメ・砂糖を中心に大きな影響を受け、ロシア、ウクライナ等も干ばつの影響で春コムギの生産状況が悪いようです。このような状況下に世界的な金融緩和もあって、市場への投機資金の流入が加速し、穀物相場が大きく動いています。特にコムギ価格は急上昇しており、2008年の価格高騰時を超え、今後は9ドル/buに届くのではと懸念されています。

また、このようなトウモロコシ、春コムギの価格高騰は、これらを飼料とする養豚、養鶏に影響を与え、消費者価格の高騰につながる懸念されています。一方で、米国農務長官は、エタノール用トウモロコシ（トウモロコシ需要の約4割）への補助金を続けるとしています。またヨーロッパでは、ロシア、ウクライナが2008年と同様に、輸出規制に動くのではないかと懸念も生じています。

参考リンク

・ Agricultural Weather and Drought Update（USDA、7月12日）

<http://blogs.usda.gov/2012/07/12/agricultural-weather-and-drought-update-%E2%80%9371212/>

（文責：西野 俊一郎）

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mail アドレス：deskb@jaicaf.or.jp
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後2週間以内に届かない場合は、お手数ですが03-5772-7880（担当：西野・森）までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行：(社)国際農林業協働協会(JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階